

*Italian Government Commissioner General's Office  
2005 World Exposition – Aichi, Japan*



「リオニ」コッリ市の旗使い  
(1966 から)

「Sbandieratori Dei Rioni Di Cori」(「リオニ」コッリ市の旗使い)が出現したのは1966年の「Corasello Storico Dei Rioni」という、1937年からコッリ市で行われている歴史の復活を祝う祭りのときです。イタリアにあるすべての旗使いの中で彼らの美しさと品のよさを越す旗使いはいないでしょう。彼らの技は芸術的で、驚くべき高さにまで旗を投げることができます。これらのことが彼らを世界的に有名にし、欧州からアメリカ、そしてアフリカやアジアまで名をとどろかせました。また、彼ら自身の表現力を最大に引き出す「旗使い学校」まで作りました。そして彼らのショーを引き立てるのはトランペットやドラムの演奏をする「Fanfarra Antiqua」(ルネッサンス時代のバンド)です。彼らが演じる場所は野外や天井のない劇場であり、また屋外のパレードにもしばしば参加します。このような環境が旗を使ったアクロバティックなパフォーマンスを発揮するのにふさわしいからです。

彼らは1988年のソウル・オリンピックのオープニングセレモニーにも出演し「イタリアの民間伝承大使」に選ばれました。このことが更に彼らを有名にしました。





コッリ市は古代芸術の「戦中の旗の使い方」で有名な町です。この芸術は町の人々の生活の一部になり、またこの町の伝統のひとつになりました。それは、コッリ市やローマ市の勲章が入った色鮮やかな旗を持った3人の若い旗使いが当時の権力者に呼び出され、「リオネ・テスタッチョ」（ローマの古い地区）で行われる、「ルディ」という競い合いに参加したことがすべての始まりです。この古い習慣は今でも行われています。

旗投げの芸術が発展したのはもともと政治や軍事的な目的でした。貴族の中でもっとも勇敢な男が旗運びに任命され、旗を持つ者（王室や貴族の者）は戦争中に軍隊や民兵に指示を出す人になりました。旗の一つ一つの動きが軍事的な暗号を意味していましたが、華麗な動きが軍事的技術を超え芸術に発展しました。

【コッリ旗投げ団の活躍したイベント】

1988年 ソウル国際フォルクローラ・フェスティバル

第24回ソウル・オリンピックのオリンピック・アート・フェスティバルを含めて。

シネマ・イタリアン・スタイル、モーション・ピクチャー・アート&サイエンス

ロサンゼルス・ハリウッド（アメリカ・カリフォルニア）

インターナショナル・フェスティバル・プログラム

ディズニーランド（アメリカ・フロリダ）

コロンプス・デイ（アメリカ・ニューヨーク）

84年つくば万博（日本）

コンサート・フォー・ライフアンドピース

2003年クリスマス（パレスチナ、イスラエル）

インターナショナル・ツーリズム・フェア（フランス・パリ）

